

1. 授業の概要(ねらい)

インドは多様かつ複雑な社会を有し、さまざまな社会的・経済的な問題を抱えています。こうした状況は学術的に非常に魅力的であるにもかかわらず、わが国ではインドの社会に関する理解は十分ではなく、いまだ、「神秘の国」「不思議な国」といった印象が流布しているのが現状です。本科目では、現在のインドにおける社会的・経済的な問題について理解し、それらをわが国の事例とも比較しながら検討できるようになることを目指します。

授業の前半では、カーストや宗教などのインドの社会問題について説明し、そうした問題をポストコロナルという観点から検討します。後半では、都市の消費文化、教育問題、若者の政治行動、農民が直面している諸問題、マスメディアの働きなど、現在のインドにおけるさまざまな問題や現象について説明します。

各回(第1回を除く)の授業の終わりに、10分程度の小テストを行います。小テストでは、授業で学んだ知識を確認するだけでなく、授業で学んだ事柄に対して自分なりにどう考えるのか、各自の考え方や意見などをまとめていただきます。

2. 授業の到達目標

以下の3つを到達目標とします。(1)現在のインドの社会問題について、ポストコロナルという観点から理解し検討する。(2)現在のインドにおける社会問題や社会現象について、わが国の事例と比較しながら理解し検討する。(3)現在のインドが抱えるさまざまな問題について、その原因や解決策などに関して自分なりの考えを提示できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

各回の小テストの合計点(40%)と、期末レポートの内容(60%)を合わせて評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書

教科書は指定しません。各回の授業ごとに、講義内容をまとめたレジュメや関連資料などを配布します。

参考文献

堀本武功・三輪博樹 編 『現代南アジアの政治』 放送大学教育振興会、2012年
田中雅一・田辺明生 編 『南アジア社会を学ぶ人のために』 世界思想社、2010年

5. 準備学修の内容

第1回目の授業のときに、各回の授業内容の詳細について説明します。また、各回の授業で使用するレジュメはひとつ前の回の授業のときに配布しますので、レジュメや参考書などを事前に読んで予習を行い、疑問点などを明らかにしておいてください。

6. その他履修上の注意事項

特になし。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション:授業の概要と進め方、インドの政治・社会・文化
- 【第2回】 カースト制度と不可触民:カースト制度とは何か、不可触民とはどのような人々か
- 【第3回】 弱者優遇政策:特定カーストに対する留保制度をめぐる対立
- 【第4回】 多宗教社会:インドにおける主な宗教、宗教をめぐる対立
- 【第5回】 宗教ナショナリズム:ヒンドゥー・ナショナリズムの台頭
- 【第6回】 統治をめぐるイデオロギーの対立:歴史的経緯、政党政治との関わり
- 【第7回】 ジェンダーと女性問題:伝統の担い手としての女性、女性に対する暴力
- 【第8回】 ポストコロナル:インドの社会問題をポストコロナルという観点から見る
- 【第9回】 経済政策:経済自由化のインパクト、経済成長と都市の消費文化
- 【第10回】 アイデンティティ政治とガバナンス:政治にもたらす影響
- 【第11回】 教育問題:インドの教育制度、学歴社会と厳しい受験戦争
- 【第12回】 若者の行動:政治意識の高まり、活発な政治参加
- 【第13回】 農民の行動:インド経済における農業の重要性、農民が直面している諸問題
- 【第14回】 マスメディア:活発なジャーナリズム、マスメディアをめぐる問題点
- 【第15回】 ディアスポラ:在外インド人の持つ政治的・経済的な影響力